

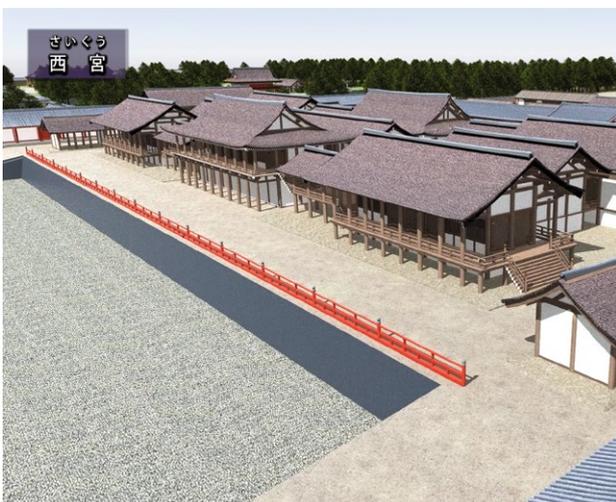
平城宮・京紹介CG動画の作成と多言語化

多くの場合、建物の基礎部分だけが残る遺跡から、往時の姿をイメージするのは容易ではありません。そこで、奈文研では視覚的に奈良時代の平城宮・京を理解できるよう、CGで建物をはじめとする諸施設を復元して、公開することを目指してきました。折しも昨年度、文化庁の補助を受けて英・中・韓の多言語解説を付すことができ、今年3月より動画として公開に漕ぎ着けることができました。

CGモデル原案は、1977年に奈良市が作成した平城京の復元模型を参照しています。ただし、40年以上が経過しているため、都城発掘調査部でプロジェクトチームを組織し、可能な限り最新の研究成果を盛り込むこととしました。作業は発掘遺構から具体的な建物寸法や配置を確定させることから着手しました。とはいえ、平城宮跡において発掘調査を実施できたのはまだ全体の約4割弱。第一次大極殿や朱雀門等、すでに詳細な検討をへて復元された建物はその図面を参考にできます。いっぽう、現時点で復元図がない建物は、発掘遺構を検討して現存する歴史的建造物を参照しながら上部構造を推定しました。

復元には多大な時間と労力を要しましたが、日本語だけでなく多言語での紹介ができたのは幸いです。これらの動画は、平城宮跡資料館で見ることができるほか、なぶんけんチャンネルでも公開しています。この動画で、奈良時代の平城宮・京を体感していただければ嬉しく思います。

(都城発掘調査部 山崎 有生)



西宮の様子(平城宮紹介CG動画より)